

団塊・シニア世代を 地域の力に



まえだ しゅうじ
前田 終止
霧島市長(鹿児島県)



よしおか はつひろ
吉岡 初浩
高浜市長(愛知県)



くろす りゅういち
黒須 隆一
八王子市長(東京都)



せと たかのり
瀬戸 孝則
福島市長(福島県)

司会・コーディネーター

細川珠生

政治ジャーナリスト

昨今、本格的な高齢化社会の到来と、団塊世代の大量退職に伴い、団塊・シニア世代の活躍の場が大いに求められています。そのような中、各自治体では、都市部からの移住・定住を促したり、知識・経験などを生かせる活動の場を提供するなどして、団塊・シニア世代を地域の力としていく施策を取り始めています。

今回の座談会では、団塊・シニア世代による地域活性化事業に意欲的な瀬戸孝則・福島市長、黒須隆一・八王子市長、吉岡初浩・高浜市長、前田終止・霧島市長にお集まりいただき、取り組みの内容や、行政におけるメリット・効果などを中心に語っていただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

リタイア後のステージでも、しっかりと活動できる「居場所」を行政が提供することが大事。



瀬戸 孝則
福島市長(福島県)

「団塊・シニア世代」はまちを元気にする地域活性化の起爆剤

細川 日本の高度成長を支えてきた団塊・シニア世代は、約670万人にも及びます。平成19年からこの世代が続々と定年退職を迎えているのはご存じの通りです。そのような中、地域に帰った団塊・シニア世代をどのように迎え入れ、地域活動などへの参画を促すのかは、都市自治体においても大きな課題でしょう。

今回は、団塊・シニア世代を地域活性化に結びつけようと熱心に取り組む都市の市長にお集まりいただきました。まずはこの世代を

どのように位置付けていらっしゃるか、その上で各都市が行っている代表的な取り組みについてお話しください。

瀬戸 実は私も昭和22年生まれの団塊・シニア世代。経済復興、それに続く高度経済成長、さらにはバブルの崩壊と、さまざまな経験をしてきた年代です。この世代が持つ貴重な経験をまちづくりなどに活用していくことは非常に有意義だと考えています。

団塊・シニア世代が地域の中で生き生きと活動するためにも、重要なキーワードとなるのが「居場所」づくりだと考えています。つまり、リタイア後のステージにおいても、しっかりと活動できる場所を行政が提供するということです。この世代は「アクティブシニア」と称されるように、非常に元気で若々しい世代でもあるため、そのような環境さえ整えられたら、活発な活動が展開されると思います。福島市ではそのための仕組みづくりに力を入れているところです。

まず取り組んでいるのは活動拠点の整備です。JR福島駅近くにある元百貨店の空きビルの1フロア(約6000㎡)を活用して、今秋には、この世代の皆さんが学習したり交流ができる施設「アクティブシニアセンター」をオープンします。また、元気な高齢者でも、年齢を重ねるとなかなか外出しにくくなってきます。そこで大切になるのが、高齢者の足となる公共交通機関です。そのため、福島市では高齢者が社会に参加する機会を増やすために、75歳以上の市民に対する路線バス料金の無料化を10月から実施します。

黒須 八王子市は毎年3000人から4000



黒須 隆一
八王子市長(東京都)

まちづくり活動促進のためには、その地域ならではのメニューを用意することが大切です。

サービス株式会社」を設立、多くのシニア世代の市民を雇用し、市の業務を積極的にアウトソーシングしています。設立後10年以上経過した現在では、約260名の社員を抱えるまでに至りました。市役所職員がおよそ270名です。市役所とほぼ同じ数の方が、公共に関する分野で活躍しているわけです。さらに、行政コストのスリム化にも大きな役割を果たしています。平成7年当時、市税収入に対する人件費が40%程度にまで膨張したことに関心を感じたことが同社設立のきっかけでしたが、現在はその人件費も25%

人もの人口増が続いているものの、その一方で高齢化率も高まり、現在2割を超えています。とはいえ、統計によるとそのうちの8割は「元気高齢者」。この方々を地域の資源として位置付け、積極的に活用させていただくことが重要だと考えています。

そのような中、わが市が取り組んでいる施策の一つが「ビジネスお助け隊」です。これは、八王子市と八王子商工会議所との連携により設立した、地域産業活性化に取り組む組織「サイバーシルクロード八王子」の中で、まさに企業支援の実行部隊として活躍していただいています。八王子市は伝統的に絹織物で発展した「産業都市」であり、市内には先端技術系の中小企業が数多く立地しています。世界的なシェアを有していたり、高度な技術に裏打ちされた製品を製造するなど、有望な会社も少なくありません。しかし、スタッフが少ないために、十分な展開や戦略を描くことができないという場合も多い。そういう企業に対して、経験豊富な企業OBが、自身のスキルを生かして支援するのが、この「お助け隊」です。メンバーは約60名。営業や経理など業務に通じた専門家はもちろん、ISOの申請にかかわるなど、貴重な経験をしてきたスタッフが多数在籍しています。具体的には経営者に

以下と大幅な縮減が実現できたほか、毎年2億7000万円程度の削減効果が出ています。リタイアされた優秀な市民を数多く雇用し、活動の場を提供しながら、同時に財政再建も果たしていった。まさに、一石三鳥の取り組みだと実感しています。

前田 霧島市は平成17年に1市6町が合併して誕生した都市で、およそ13万人もの人口を抱えています。これは鹿児島県内では2番目の人口規模です。

現在、日本は平成16年をピークに人口減少時代に突入しましたが、その中でもせめてわれわれのまちは今の人口を維持したい、できれば、1人でも人口を増やしたいというのが率直な思いです。そこで、わが市が着目したのは団塊の世代の移住・定住でした。大都市で懸命に働き、退職された世代の方々に、「ついでにすみか」として、ぜひ霧島市を選んでいただき、人口を増やしたい、活性化を成し遂げたいと考えたわけです。

事実、わが市は、海もあれば、山もあれば、川もある。総面積約603km²、霧島国立公園もあるし(霧島市はそのエリアの一部)、県内トップクラスの湧出量を誇る温泉群「霧島温泉郷」も存在します。さらに、市内には南九州の空の玄関口である鹿児島空港も設けられているため、東京までは1時間半。交通アクセスが抜群によいまちでもあります。ほかに、医療環境や子育て環境も整備するなど、地域インフラも充実しています。

このような地域資源を十分に生かしていることと本格的に活動を始めたのは4年前。移住・定住に関するワンストップ窓口「おじやんせ

対してマンツーマンで経営指導に当たるなど「伴走型」のサポートが特徴です。大企業との連携を仲介したり、経営者と共に金融機関の担当者と会ったり、まさにパートナーとして支援します。平成21年度には、リーマンショックの影響で苦境に立つ中小企業の雇用を守るため、市で実施した雇用維持奨励金の審査やその後の経営指導などの伴走型支援に大きな力を発揮していただきました。

この「お助け隊」の母体であるサイバーシルクロード八王子は、私が市長就任当時、地域産業振興を最重要施策として位置づけ、商工会議所と協働で設立したものです。

サイバーシルクロード八王子は、「お助け隊」を中心に、革新的な事業に取り組んでおり、平成19年度には「地域づくり」総務大臣表彰、平成20年度には「起業支援家部門」経済産業大臣表彰を受賞するなど、今や市内の中小企業にとって無くてはならない組織として、市内外から高い評価を受けています。

吉岡 高齢者の定義は65歳以上とされていますが、70歳、75歳を過ぎても多くの市民は元気です。高浜市はトヨタ系の企業をはじめとして、大企業で働いた元企業戦士が数多くいます。そのような方々に地域の中で活動していただくことで、さまざまなノウハウをまちづくりなどに生かしていただければ、そのことによりまち全体も活性化します。その意味で、私は団塊・シニア世代はまさに戦力そのものだにとらえています。

だからこそ、行政はそのための環境整備に取り組みする必要があります。実際、高浜市では平成7年に、市が100%出資の「高浜市総合



前田 終止
霧島市長(鹿児島県)

退職された方々に霧島市を選んでいただき、人口の増加による地域活性化を目指しました。

黒須 やはり画一的な施策ではなく、地域ならではのメニューを用意することが大切だと思います。八王子市は21の大学があり、約11万人の学生が学ぶ学園都市です。そのような地域特性を生かして、平成16年から市民のための市民講座「八王子学園都市大学」を開校しました。キャンパスは八王子市にある全21の大学。学習意欲がある18歳以上の人なら誰でも通学でき、それぞれの大学の特色を生かした講義を受けられます。市民講座を設ける都市は多いですが、これだけの規模の市民大学を展開している例はほとんどないはずですよ。

「あかおにとん」という地域交流の場です。高浜市はもともと三州瓦の産地で、ものづくりの伝統がある地域です。ここでは、ものづくりの技術を生かし、ボランティアで福祉用具をつくったり、修理を行ったりするのですが、多くのシニア世代が熱心に活動してくれています。**瀬戸** 福島市でも、観光の名所である花見山公園でボランティアガイドをしたり、子どもが楽しみながら学べる施設「こむこむ(子どもを育む施設)」においてボランティアスタッフとして多くのシニアが活動しています。

吉岡 高浜市内には大学がなく、高校も1校だけですが、能力を生かして、地域で活躍していただく場こそが「セカンドステージカレッジ」ではないかと考えています。もともと団塊・シニア世代に地域で活動するためのメニューや場所を用意し、ボランティア促進の仕組みづくりを力を入れたいと思います。

瀬戸 福島市でも団塊・シニア世代が気軽に学べる生涯学習に取り組んでいます。その中でユニークなのは、普通の講義方式の学習だけではなく、「農業」をテーマにした体験学習に力を入れていることです。というのも、福島市は農業が盛んで、特にサクランボ、モモ、ナシ、リンゴなど、さまざまな果樹が生産される土地柄。農業に関心を持つ市民も多く、実践で学べる農地も、指導する農家の方も十分に確保できます。そこで、これらの資源を活用して、土づくりから果樹をはじめとする農産物の育て方を学ぶ「農のマスターズ大学」を平成18年から開校しており、多くのシニア世代が参加しています。

黒須 わが市でも同様の制度を設けていますが、あえて交付金を受け取らない市民もいます。純粹にボランティアとして活動したいと考えているようです。ご自身の励みとされるその姿勢が頼もしいですね。

団塊・シニア世代の活用は行政のメリットも大きい
細川 それでは最後の質問になります。これまで団塊・シニア世代の地域参画、活動促進策について幅広くお聞きしましたが、これま

活動されている皆さんは、自分が地域に役立っていることを誇りに感じてくださっています。先ほど申し上げました「アクティブシニアセンター」でもボランティアスタッフとして活躍していただく予定です。

前田 ボランティア活動の促進といえば、わが市では、65歳以上の市民を対象にした「介護保険ボランティア・ポイント制度」を設けています。参加登録された方が高齢者施設や子育てサロンでのボランティア活動を1時間行くと、100ポイントが得られる制度で、年間最大5000ポイント(5000円に相当)分を、介護保険料の納付原資として換金できます。活動することが生きがいづくりにもなり、取り組みも意欲的です。



が市では、65歳以上の市民を対象にした「介護保険ボランティア・ポイント制度」を設けています。参加登録された方が高齢者施設や子育てサロンでのボランティア活動を1時間行くと、100ポイントが得られる制度で、年間最大5000ポイント(5000円に相当)分を、介護保険料の納付原資として換金できます。活動することが生きがいづくりにもなり、取り組みも意欲的です。

シニア世代に公の仕事に携わってもらうことで、行政のよき理解者になっていただけます。



吉岡 初浩
高浜市長(愛知県)

うか。わが市ではそういう方の受け皿になっているのが「高浜市総合サービス株式会社」であるし、また、地域の空き店舗を活用して、企業の男性OBの方が中心となって、コンピュータを市民に教えたりとさまざまな活動を展開しています。

まちづくりにおいても、仕組みさえ整えば、男性は熱心に活動します。高浜市は「まちづくり協議会」を設けて、自分たちの地域の問題解決につながる事業を、それぞれの協議会が独自に展開していますが、こういう組織の中では、男性は能力や経験を生かして、リーダーシップを発揮します。

地域特性に合致した取り組みが効果を生む

細川 それぞれの地域では男性シニアの活動促進に向けて、さまざまな工夫をされていますね。それでは重ねてお聞きしますが、今度のは男性、女性にかかわらず、団塊・シニア世代の活動促進策として、独自のユニークな取り組みがありましたら、ぜひお聞かせください。

うか。わが市ではそういう方の受け皿になっているのが「高浜市総合サービス株式会社」であるし、また、地域の空き店舗を活用して、企業の男性OBの方が中心となって、コンピュータを市民に教えたりとさまざまな活動を展開しています。

そこでは、八王子市では地域のNPO法人や市民の方々と実行委員会を組織して、「お父さんお母りなさいパーティー」を毎年開催し、毎回200人近い定年退職を迎えられた方々などが訪れます。このパーティーでは地域で活動する際の心構えなども先輩たちが教えてくれるのですが、このような地域デビューのきっかけづくりの場も大切だと思います。

瀬戸 福島市にも50年以上の歴史を有する「自治振興協議会」というまちづくり組織が28地区にあります。こういった組織のリーダーは、男性が多いですね。責任や役割を与えられるとがぜん張り切るのが、男性ではないでしょうか。**黒須** 先日、新聞を見て驚いたのですが、ある都市でアンケート調査をしたところ、高齢者の約7割が自宅から外に出ない、さらに約3%強は自分の部屋から出ないという結果が出ました。高齢者の社会的な孤立は全国の都市においても大きな課題の一つでしょう。特に男性の場合は、現役時は朝早く出社して、夜遅く帰宅するといった仕事一本やりの生活。いざ、退職しても、地域の中に、人脈もネットワークも築いていない。地域で活動しようにも、そのすべがないという人が多いと思います。



細川 珠生
(政治ジャーナリスト)

での取り組みの中で、行政においてはどのような効果が出ていますか？

黒須 高齢者が元気なまちは、まちも元気。そのことを実感しています。同時に、アクティブに活動すれば健康も維持できるといふことで、医療費の削減にもつながっていきます。また、高浜市と同様に、行政の業務を一定程度お任せすることで、行政コストも削減できます。例えば、八王子市は公園が多いまちで約900もありますが、そのうち、300ほどの公園は、まちへの愛護心の高揚と環境美化を目的とした「公園アドプト制度」を活用して、地域の方に管理をお任せしています。業者に比べて、より管理が丁寧で、なにしろ住民同士のコミュニケーションが活発になり、地域コミュニティがより強固になるなどの効果が出ています。

吉岡 そうですね。シニア世代が活発に活動することで、地域全体が活性化しますし、公の仕事に携わってもらうことで、行政のよき理解者になっていただけるといふ効果もあります。本日は男性がなかなか地域の中に溶け込めない一端をお話ししましたが、しかし、一度活動にかかると、とても熱心に活動す

る男性も大勢います。提供する昼食を男性だけで作る宅老所もありますし、八王子市と同様に公園管理をしてみると、花の名前も知らないなりに種を買ってきて、自主的に植える人もいます。経験を生かしてもらうことも大事ですが、意外に新しい経験を促すことも必要かもしれません。

前田 定住して新住民になったシニアの方が、積極的に地域に溶け込み、活動してくれるのが行政にとって非常にありがたいと思います。特にうれしいのが、行政・民間団体の会員で組織される「おじやんせ霧島移住連絡協議会」のメンバーとして、霧島市の素晴らしさをアピールしてくる点。年間2回にわたり、お試し滞在事業を展開していますが、そのたびに移住・定住の準備の方々に対して、当事者としての体験話を交えながら、PR活動に取り組んでくれます。

瀬戸 地域でまちづくりのリーダーになったり、公共施設の企画運営のスタッフとなったりと、市民との協働のまちづくりを推進する上でも行政への効果は大きいものです。また、子育て支援策として昨年発足した「こんにちは赤ちゃん応援隊」があります。応援隊の方が子育て経験を生かし、各地域で子育てに悩む若い母親から相談を受けたり、子育て情報の提供を行う活動をしていただいています。応援隊の皆さんからは知識・経験が役立っているらしい、若さと元気をもらったとの声があります。まちづくりやコミュニティの活性化など、行政のメリットがあるだけではなく、居心地のいい居場所をつくり、元氣と生きがいにもつながるものと思います。

細川 経験豊かな団塊・シニア世代がまちづくりに携わったり、新しい市民として加わる

ことで、住民自治の拡充、行政コストの削減など、多くの効果があることが分かりました。また、各都市では地域の特性や資源をうまく生かしながら、団塊・シニア世代の活動促進の施策を展開されていらっしゃると思います。いずれも地域ならではの取り組みばかりで、全国の都市でも参考になるのではないかと思います。

高齢化はこれからも確実に進行していきます。この世代をよきパートナーと位置付け、これからも中長期的な取り組みとして、地域一丸となって取り組んでいかれることを期待しております。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

(平成22年6月9日、全国都市会館にて実施)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は9月号に掲載予定です。

